

2013.2.24

## 正指導員検定合格までの奮戦記

ビブナンバー 86・・・なっ、ない！

合格者番号が貼り出された掲示の数字を何度も探すが、自分の番号が欠番になっていることを確認したとき、現実を受け入れ難くて、その後の成績の開示での講評が耳に入らず、何も考えられなかった・・・。

あの発表から1年。今年は場所を岐阜県ほうのき平スキー場に移しての再受験である。

今日までメタボ体策と兼ねて毎日欠かさず行った腹筋50回、超堅い体をほぐすための柔軟体操50回。数こそ大したことはないが、「楽をしたい」自身の誘惑との日々戦ってきたという自負はある。

また、不合格を突きつけられた後も、当クラブの合宿や練習でのアドバイス、スキー学校の先生たちによる温かい励ましと適切なお指導をいただいていた。県連の養成講習会での Asahi デモによるビデオレッスンでは自身の弱い点を分かりやすく解説してもらった。特に「ヒールピースよりも尻を落とさないように」と板に働きかけられる良いポジションが、また「ふくらはぎをブーツから離さない」ことでかかと荷重のポジションが身についた。

さらにはニュートラルの局面で上に抜けがちな自分にとって、「外脚から内脚へつながる局面での板をフラットに踏むこと」で正確なニュートラルと谷回りができることを教えて頂いた。またデモのスケールの大きな滑りを間近で見ることができ、大いに触発された。

なお、かかと荷重は当クラブの Mo さんの直前集中レッスンを受けた際にも、「深雪、悪雪であっても失敗しない操作しやすいポイント」として新発見できたところである。また Mo さんからは、自分の板の操作が「横に出し過ぎるので、前に出す意識を持つように」アドバイスを受けたが、これが受験1週間前の東海北陸ブロック公認指導員養成講習会の講師であった Naka 先生からいただいたアドバイスと繋がることとなった。先生からは、大回りで「ターンの前半部で外足を前に出すことで、谷回りを魅せられる滑りができること」、それが「内股関節を緩めた滑りに繋がること」を教えて頂いた。また「ストックワークで手が前に出ることによって抜重操作に見られかねないので、大回りではストックワークをしないこと」の注意を促された。ブロック養成講習会は、試験当日の検定員が、「やってはいけない注意点」を指導してくれる点で、大いに受講する意味がある。

試験直前の受験生でチェックし合うことも重要であったと思う。今年、同じく単位受験の No さんからは「板にしっかり重みを伝える意識を持つことや板の深回りの操作で、板がぶれない安定した滑りができること」を気づかせてもらった。最後の最後の滑りまでビデオを撮ってくれてコメントしてくれた準指からの戦友の Yo さんにも心から感謝したい。

長々と受験時の滑りの留意点を羅列してきたが、私が正指導員を受験しようと思ったのは、当クラブの正指、クラウンホルダーである To さんの一言であった。「生徒としてスキースクールに申し込んだ場合、自分としては同じ料金払うなら正指導員から教えてもらいたい」。お客様目線での、その言葉に、ただ頷くしかなかった。自分としては、「もっと練習して上達してから正指導員を受験すればよい」と思っていたが、「受験し、合格の目標をもつことが、結果として上達する近道だった」と今は考えを改めたところである。

次に、合格に導いてくれた要因を振り返ってみると、「受験する」との目標を持ち、周りに公言し

たことが思いのほか、重要だったのだと思う。頑張ろうとする人には、当クラブのメンバーをはじめ、支えてくれる方が次々現れ、知らず知らずのうちに環境が整ってくるのである。動機と受験を促してくれた当クラブの Ta 会長、正指導員の先輩として、また登山の師匠として、滑りに対してもアドバイスして頂いた Ki アドバイザー、Oga さん、HP でメンバーの練習情報を発信し続けてくれた Ta さん、激励してくれた多くのクラブメンバー、スキースクールの指導員、県連の役員・ご指導頂いた皆さん、2年にわたって励まし合った同期受験生、仕事を配慮してくれた上司・応援してくれた職場の仲間、見守ってくれた家族、そして自分自身の健康。すべてが受験を支えてくれて、応援してくれて、ついに受験の日を迎えられたのだ。

朝からうっすらとつもった粉雪のグレンデに、規制された専用バーンのスタートに着いた。種目は大回りと小回りの2種目 B 単位だけ。去年は滑った瞬間、頭が真っ白状態で何をしたか分からないうちに終わってしまったので、今年はせめて2つのポイント（抜重しないこと、外足かかとを前に）に絞って心がけ、頭でイメージを繰り返し、スタートを切った。そしてできたかできないか、またしても手応えのないまま、あっという間に終わってしまった。

そして今日、貼り出された合格者の掲示の前。

あっ、あった！ついにビブナンバー32を見つけた時の言葉にならない喜び。

それと同時に、自身を成長させてくれた多くの方のご厚意と恵まれた環境に感謝しつつ、このご恩返しが少しでもできるように、今後の精進を誓った。

文責：山田敏之（なおこの記事のご批判、ご意見は、直接私あてをお願いします）

[fwhn2016yamada\\_to\\_snow@nifty.com](mailto:fwhn2016yamada_to_snow@nifty.com)



石川県からの受験者5人は全員合格！合格者掲示の前で